

日本オリエント学会第 62 回大会プログラム

2020 年 12 月 5 日（土）、6 日（日）

オンライン開催（名古屋大学）

第 1 日 12 月 5 日（土）14：00～17：30

公開講演会・学会奨励賞授賞式

14：00～ 開場

14：15～ 開会挨拶（日本オリエント学会第 62 回大会実行委員長 周藤芳幸）

14：25～ 公開シンポジウム「オリエントの学際研究—エジプト学の未来—」

・馬場匡浩（早稲田大学エジプト学研究所・客員主任研究員）

「エジプトにおける学際研究」

・山花京子（東海大学文化社会学部アジア学科・准教授）

「古代エジプト・ファイアンス研究—研究領域のパラダイムシフトを目指して—」

・永井正勝（東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門・特任准教授）

「研究資源共有のためのプラットフォームの開発：二人の言語学者の発想から始まった言語資料のデータベース化」

・森島邦博（名古屋大学大学院理学研究科・特任助教）

「宇宙線イメージングによるクフ王ピラミッド内部の新空間の発見と今後の展望」

16：00～ パネルディスカッション

コメンテーター

・川本悠紀子（名古屋大学人文学研究科・准教授）

・山田綾乃（早稲田大学エジプト学研究所・招聘研究員）

モデレーター

・河江肖剰（名古屋大学高等研究院・准教授）

16：40～ 閉会の挨拶（日本オリエント学会会長 近藤二郎）

17：00～ 第 42 回オリエント学会奨励賞授賞式

第2日 12月6日(日) 10:00~15:00

研究発表会

- 発表要旨を11月末頃に学会HP上にアップロードします。
- 研究発表会(それぞれの発表は20分、質疑応答は5分をお願いいたします)

第1部会

	時間	発表者	タイトル
1	10:00~10:25	小高敬寛、前田修、下釜和也、早川裕弼、西秋良宏、ナシルワン・A・ムハンマド、カマル・ラシード	イラク・クルディスタン、シャカル・テペ遺跡の後期新石器時代層
2	10:30~10:55	三木健裕	紀元前5千年紀、ザグロス山脈南麓における彩文土器の拡散・展開を再考する:バウンダリーオブジェクトとしての彩文土器
3	11:05~11:30	山口雄治、紺谷亮一、フィクリ・クラックオウル	キュルテペ遺跡における前期青銅器時代の土偶と石偶
4	11:35~12:00	鈴木慎也	古代スリランカの水利施設の形状比較
昼食休憩			
5	13:00~13:25	津村眞輝子	境界域におけるサーサーン朝ペルシアの貨幣:クルディスタンからの出土例をもとに
6	13:30~13:55	青木健	イランの仏教
7	14:05~14:30	内記理	ガンダーラ地方の仏教寺院における塔院と彫刻材質比率の関係
8	14:35~15:00	下山繁昭	高句麗文化の担い手が来た道

第2部会

	時間	発表者	タイトル
1	10:00~10:25	アブデルアール・アハメド	古代エジプト・中王国時代(第11・12王朝)のネクロポリス・テーベ

2	10:30~10:55	高橋寿光	土器からみた古代エジプト新王国時代の埋葬
3	11:05~11:30	肥後時尚	古代エジプトの「死者の書」における m'ty
4	11:35~12:00	藤井信之	前4世紀エジプトの軍事勢力をめぐる問題について
昼食休憩			
5	13:00~13:25	坂本翼	カラノグ遺跡の階層性
6	13:30~13:55	間舎裕生	中期青銅器時代・後期青銅器時代南レヴァントの都市における市門の位置づけ：市門の形態と機能の分析を通して
7	14:05~14:30	藤澤綾乃	初期ビザンツ期パレスチナの教会堂構造：アプスと小礼拝堂の関わりについて
8	14:35~15:00	田辺理	東京国立博物館所蔵杯をもつヘラクレス像について

第3部会

	時間	発表者	タイトル
1	10:00~10:25	川上直彦	GISによるアッカド王朝の中心都市「アガデ」の所在地探査：ティグリス川古代流路との関連性による一考察
2	10:30~10:55	菊地咲	メソポタミアにおける暦注の注釈書の欠如に関する考察
3	11:05~11:30	江原聡子	ドゥムジからタンムーズへ：泣哭儀礼の様相
4	11:35~12:00	西山伸一、 渡部展也	新アッシリア帝国の拠点都市の周辺景観：ヤシン・テペ考古学プロジェクトからの考察
昼食休憩			
5	13:00~13:25	柴田大輔	ブローケン・オベリスクの王：アッシュル・ベール・カラカ、ティグラトピレセル1世か
6	13:30~13:55	山田重郎	被征服民のアッシリア帝国への帰属をめぐる一考察
7	14:05~14:30	渡井葉子	紀元前1千年紀バビロニアの都市の家族と女性
8	14:35~15:00	山本孟	ヒッタイトの祭儀における神々に近づく際の所作についての一考察

第4部会

	時間	発表者	タイトル
1	10:00~10:25	高橋洋成	ヘブライ語の不規則変化名詞類に見られるセゴル型の痕跡：語幹交替を踏まえた新しい語型分類の提案

2	10:30~10:55	新井雅貴	ヘブライ語聖書における「レファイム（死者）」と死者儀礼
3	11:05~11:30	榮谷温子	アラビア語の名詞文の主語の限定性と特定性
4	11:35~12:00	竹田敏之	現代アラビア語の標準化とクルアーン読誦学における流派間競合：ハフス流派の優勢化について
昼食休憩			
5	13:00~13:25	五十嵐小優 粒	ペルシア語 šodan 構文の構成要素：他動詞の過去分詞か形容詞か
6	13:30~13:55	宮川創	コプト語の母音音素目録の再整理：コイナー・ギリシア語およびアラビア語との言語接触と古代エジプト語史の観点から
7	14:05~14:30	村上武則	クルド語クルマンジー方言の無接続詞文

第5部会

	時間	発表者	タイトル
1	10:00~10:25	相樂悠太	イブン・アラビーの信仰論と「神の変容」のハディース
2	10:30~10:55	平野貴大	十二イマーム派による初期のキリスト教史理解：同派伝承中のペトロ・パウロ観をもとに
3	11:05~11:30	角田哲朗	フルーフイー教団における所謂「神の時代」について
4	11:35~12:00	三代川寛子	20世紀半ばのコプト正教会における聖メナス崇敬の復興
昼食休憩			
5	13:00~13:25	永井悠斗	アル・ビールニーの伝えるインドの太陽崇拝
6	13:30~13:55	宮島舜	スフラワルディー哲学における強度について
7	14:05~14:30	南澤武蔵	オリエント文明の高校世界史における今後について

第6部会

	時間	発表者	タイトル
1	10:00~10:25	近藤信彰	近世イランにおける講釈とその周辺：『ハムザ物語』を中心に
2	10:30~10:55	鈴木均	イラン近代史の叙述における時代区分の問題
3	11:05~11:30	徳永佳晃	レザー・シャー成立期のイランにおける選挙制度改革と国民国家理念：1304/1925年選挙法改正

4	11:35~12:00	矢本彩	20世紀初頭オスマン帝国における「3月31日事件」発生の一要因としての徴兵問題
昼食休憩			
5	13:00~13:25	ハシャン・アンマール	イスラーム的制度としてのワクフとその法学的構築：クルアーン・ハディースとイジュティハード
6	13:30~13:55	三橋咲歩	マムルーク朝後期カイロにおける都市と災害
7	14:05~14:30	小澤一郎	19・20世紀転換期のアフガン人による武器交易の再検討
8	14:35~15:00	安岡義文	マディーナット・アッ=ザフラー王宮址の柱頭のプロポーションについて

主催 日本オリエント学会

開催 第62回大会実行委員会

名古屋大学：周藤芳幸、河江肖剰、門脇誠二、影山悦子、村田光司

中部大学：中野智章、西山伸一